キラキラ光る川の流れを　―― 湘南里川づくり推進 ――

柳川　三郎

最近、金目川の河原で家族そろってバーベキューを楽しんでいる姿をよく見かけます。

子どもたちが川のせせらぎではしゃぐ様子は親しむ川となりつつの状況です。

金目川は10年前には不法投棄の格好の場所でごみの山でしたが、ごみを収集する団体・企業・学校・個人が増加して金目川はきれいになりつつあります。

また、土手に老人会・団体・個人が我が庭と同じように四季それぞれ花の園づくりに励んでいます。

金目川水系流域の土手草刈を行っている団体・個人が年を重ねるごとに急増している現象は、共同作業の良さを体感できる機会となりつつあります。

私たち金目川水系流域ネットワークは、水源から平塚市、秦野市、伊勢原市の3市と大磯町、二宮町の2町を水系流域一帯ととらえて、自然・生活環境がお互いに関係深いことの理解に努め、環境保全、省資源・エネルギー、地産地消などによって循環型社会形成のための活動を継続しています。

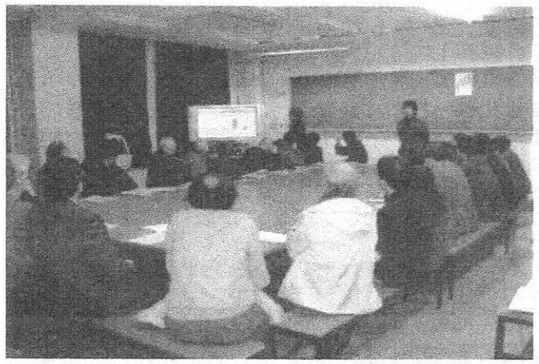
活動は広報誌によって多くの人が参加して、より良い川づくりが可能な道を探究しております。

広報誌「せせらぎ通信」は23号となりました。

また、夏休みには小学生とともに天然回遊魚のアユ、ウナギ、ヒラテテナガエビ、ハゼなどがどのように住んでいるかの生き物観察会を行っています。

さらに、源流域がどのように変化し、守ることがいかに重要かを足と目で確かめる活動を展開しています。

そして、金目川水系流域フォーラムを毎年開催し、より多くの人たちが集い、今年のテーマ「私たちにとって金目川とは」～いろいろな 立場から金目川流域を語り、その未来に期待する～を語りあいました。



（「フォーラム 2008」での語り合い風景）

私たちの活動は、会員が中心に東海大学、神奈川県湘南地域県政総合センター、神奈川県環境科学センター、地元関係自治体が環となっての活動展開です。

平成19年に神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課とともに、金目川水系流域で活動する仲間が「里川づくり」に向けたワークショップ議論を積み重ねて、平成20年6月に「湘南里川づくりを推進する新たな仕組みの構築に関する提言書」を提出いたしました。

提言の3つの柱は、次のとおりです。

1　子孫に残すべき流域の全体像と里川づくりのビジョンの提唱と共有

2　新たな仕組みに参画する団体や個人の主体的な保全・活用の活動推進

3　流域で活動する団体や個人をネットワーク化して交流の活性化を推進していく

私は、特に子供たちからお年寄りまで、楽しく明るく活動してほほえみの絶えない時間の共有を夢見ています。

○ご意見、ご感想、地域情報、入会希望などがございましたら下記までお寄せ下さい。

事務局　〒 259-1201 平塚市南金目722-2　事務局へのご連絡は、下記あてお願いします。
柳川　三郎　　Tel&Fax 04632(59)2000　　E-mail sm-y@dab.hi-ho.ne.jp

（毎月第2土曜日の午後1時30分より例会を開催しています。是非ご参加下さい。）

参加自由　　開催場所　事務局会議室（東海大学　J館406室）

金目川水系 せせらぎ通信 Vol.23

編集・発行　金目川水系流域ネットワーク世話人会　　発行日　2009年1月1日

金目川水系流域フォーラム2009へお誘い

【開催目的】

金目川水系流域を地域の住民に愛され、親しまれるものとしていくため、流域の未来について語り合い、地域の方々の協働による保全・活用に向けた取り組みについて考えるフォーラムを、金目川水系流域ネットワーク、東海大学及び関係行政機関などの連携により、下記の通り開催いたしたくご案内します。

【テーマ】

金目川水系　流域フォーラム２００９「金目川流域～よみがえれ生きもたち！」

【日程及び主催者など】

日　時　平成21年2月1日（日）午後1時20分～4時30分
場　所　東海大学湘南校舎　13号館　201教室
主　催　金目川水系流域ネットワーク
共　催　NPO法人 東海大学地域環境ネットワーク
　　東海大学大学院人間環境学研究科
　　神奈川県湘南地域県政総合センター
協　力　神奈川県環境科学センター
後　援　平塚市、秦野市、伊勢原市

【活動事例などの発表】

1）河内川生き物調べについて
　（河内川あじさいの会 安居院 虎雄 様）
2）希少魚類の調査・保護活動について
　（NPO法人四十八瀬川自然村 小野 均 様）
3）水辺の外来種問題について
　（向上高等学校　園原 哲司 様
　　ほか生物部4名）
4）東海大学大学院（人間環境学研究科）
5）金目川水系流域ネットワーク 水野 義之）

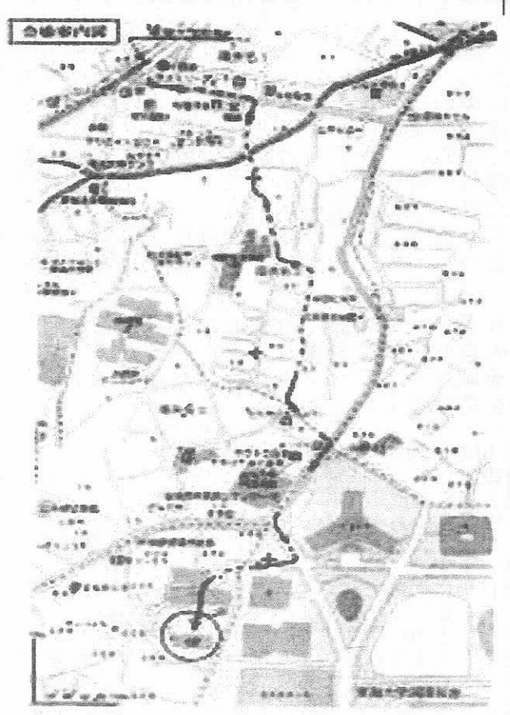
【参加者と事例発表者との意見交換会】

○コーディネーター
　金目川水系流域ネットワーク　柳川 三郎

【その他】

○Sプラザにおいてパネル展示を実施
　1月31日（土）13:00～16:00
　2月1日（日）10:00～17:00

○2月1日（日）、午前11時～正午の間、東海大学学生によるシンポジウムを、Sプラザで開催予定



（会場までの案内図）

○申し込み及び連絡先　柳川 三郎　Tel&Fax 04632(59)2000　E-mail sm-y@dab.hi-ho.ne.jp

事業報告 ― その1

平塚市博物館第100回記念特別展「金目川の博物誌」をふりかえって

平塚市博物館　浜野達也

平塚市博物館で10月4日から11月30日にかけて開催した特別展「金目川の博物誌」は、通算第100回という冠が誇張でなく記念すべき特別展となった。それは、博物館の地質・考古・歴史・民俗・生物の5分野が相互に資料や調査の成果を提供し合い、異分野が有機的に絡み合って展示を構成し、当館が総合博物館であることを全面に打ち出した特別展であったからである。

生活者の視点からすれば、川の魚の生態を知り、その生態に応じて魚の捕り方を決める。自然も文化も不可分に結びついているのが私たちの暮らしであった。だから「金目川」を取り上げるのに、単独分野ではなにか片手落ちになってしまう。なおかつ、流域ネットワークの方々による、地道なフィールドワークに基づく、きめの細かい調査成果が展示され、水系河川の自然環境の現状について教えていただくことができた。

（講演風景）

広報ひらつかの1面でＰＲされた効果もあり、五夜連続のミニ講演会は毎晩約30名が参加しパネリストとして流域ネットワークの柳川三郎氏にもご講演をいただいたシンポジウム「金目川を語る」には約100名の参加と、関連行事も盛況であった。

（講演する 金目ネット 柳川）

博物館としては、“金目川の自然と文化”について、資料をふまえて事実をきちんと伝えることに展示の主眼をおき、これからの金目川はどうあるべきかといった方向付けは、個々の来館者に委ねることになった。願わくば、より自然な流れのままに、魚が一種でも多く泳ぐ川に戻ってほしい。金目川は都市近郊の住宅地や農地を流れる身近な川でありながら、比較的自然が保たれ、かつ農業用水のように生活に密着した川である。これが金目川の個性であり、平塚市にとってその存在はとても大きいと考えている。

これからも博物館では様々な視点から金目川水系の自然と文化を掘り下げていきたい。一方で、流域ネットワークの実践的な活動に大いに期待を寄せるものである。

（金目川の博物誌　閲覧者のご感想）　（寄せられた25件の一部抜粋）

1 普段当たり前のように感じていた“水”の存在について改めて考えさせられました。素晴らしい調査結果と報告の展示でした。（平塚市在住）
2 小中学生から年配の方までが多く集まって、このような調査を行っていることを知り驚きました。このようにさまざまな年齢、立場の方が関わることができる場があるということはとても素晴らしいと思います。（横浜在住）
3 金目川について知らないことがたくさんあったので、ここで解決できました、いろいろ工夫も見られてとても良かったです。（平塚市在住）
4 田んぼと川の関係について知らなかったです。とても参考になりました。（鎌倉市在住）
5 北金目で生まれ育ちました。小さい頃から水遊びが大好きでした。相模川については探せば資料があるものの金目川は探しても見つからず、とても興味深く見ました。尚、地元の自治会では、台風が来たりすると、いまだ増水を心配して堤防の様子をチェックしにいったりもします。（平塚在住）
6 地域に根ざした博物館の特徴がよく反映されていて、現在の「生きた」平塚の姿がまざまざと伝わってきました、感動しました。（大学院生）
7 大山を仰ぎ、金目川水系の中で暮らしていながら、灯台の下は真っ暗で何も知らなかった。郷土の水を調和するための、昔ながらの戦いの跡を、今日見聞しながら沢山の刺激をもらいました、また、会期中にゆっくりきます。（伊勢原市在住）　など

事業報告 ― その2

「善波川・矢倉沢往還・太郎の里」歴史散歩

神奈川県内を南北に流れる金目川流域には、新幹線やJR東海道本線が通り、これに平行して国道1号線が横切るなど、我が国の主要幹線網が存在する地域の1つであり、人をはじめあらゆる物資が錯綜して通り抜ける地域でもある。

かっては平塚市内を通る東海道や信仰の道としての大山・富士講参りの道がこの流域を通っており、ここでは難渋を極めた旅人たちと地域の人々の心が「通いあったみち」が通っていた。

今回訪問した善波川流域は、大山から弘法山に向かう尾根の南端近くの東側斜面から流れだし、小田急小田原線の鶴巻温泉駅の南東部で大根川（金目川支川）に注ぐ小河川流域である。

この地域は、約18,000年頃にはすでに多くの人々の暮らし（上ノ在家遺跡）があり、また奈良時代以降、南足柄市関本から今回の散歩道である善波川右岸側を通り、伊勢原市笠窪から東に向かう古道（矢倉沢往還）が通っている。

この道は、西暦770年（宝亀元年）頃には古東海道として制定され、笠窪には「官制の駅跡」（箕輪駅）があるなど、奈良時代以前から人と物資が錯綜していた道でもあった。
（箕輪駅跡は、集合場所から徒歩約5分の地にある。）

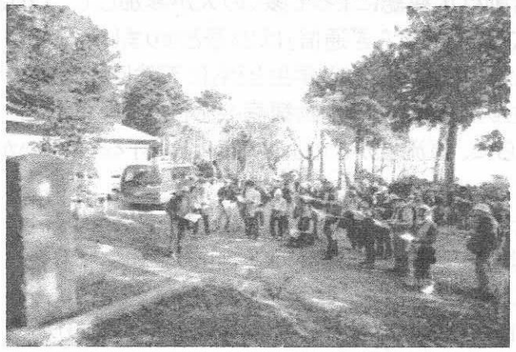
善波川上流域の地形は、特に極端な傾斜面などはみられていないものの、河床をはじめ周辺の林地内には、丸く削られた大石が累々と横たわっており、大きな自然災害が繰り返えされていたことを推定させており、善波川の河床には、伊勢原市の天然記念物である「1万数前年前の埋もれ木」（別名 神代杉）がみられているなど、往時の街道としては「旅人が、きわめて難儀をして通った道」であったと感じられた。

今回の善波川歴史散歩は、開催に際し地域の多くの方々の「散歩道の整備などのご協力」と、48名という多くの参加者をいただき、晴天に恵まれた歴史散歩の1日となった。

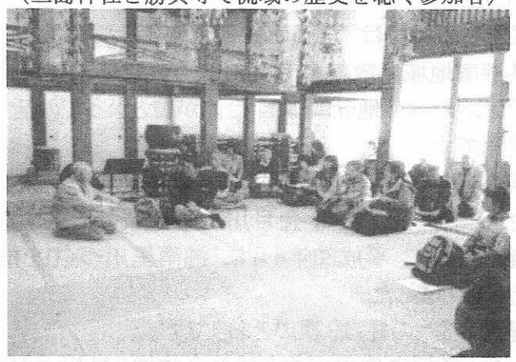
また参加者から、下記に整理したようなご評価をいただき、当ネットとして、これからもこうした機会が頻繁にもてるよう、あらためて努力をいたしたいと考えている。

参加者並びにご協力をいただいた方々に、あらためて感謝を申し上げます。　（文責　野間）

（古道を行く参加者）



（三島神社と勝興寺で流域の歴史を聴く参加者）



（参加した方々からのご感想－アンケート結果の要約）

1 今回の参加のきっかけ（複数回答）
①地域の自然や環境に興味（100％）　②ウォーキングや散策（80％）　③歴史への興味など（40％）
2 参加した後の感想　①良かった（78％）　②普通（22％）
（理由）○近くに知らないところやすてきなところがあり、新しい発見や歴史などが理解できた。
○深い自然や水がきれいで驚いた。　など
3 身近な川の魅力の発見や流域の自然、文化などの理解
①参考になった（92％）　②普通（8％）
4 身近な川を親しみ、愛される川にするための活動（複数回答）
①川の清掃や草刈り（69％）　②自然観察（60％）　③ウォーキング（54％）
④歴史や地域を知る活動（54％）　⑤シンポジウムや講演会などの開催（30％）
5 上記④の活動に関し、期待されるサポートの内容（複数回答）
①広報活動の支援（78％）　②人的支援（55％）　③財政的支援（22％）　④活動内容の相談（14％）

（以上、アンケートにご回答をいただき、ありがとうございました。）